

かながわ経済新聞〔ビズログ〕

KANAKKEI

県内ビジネス情報イッキ読み!

Big Log

※本紙全てのコンテンツの無断転載・複製・転用を禁止いたします。

2021 7月号
VOL.091

（発行） KANAKKEI
かながわ経済新聞
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
相模原商工会館 本館 1F
（制作） 神奈川新聞社

社務・会計・経営支援
0 りんく
株式会社
りんくグループ
042-730-7891
www.link-tax.com

「人財」でお困りなら
株式会社
MI ミヨシ・ロジスティックス
042-779-6619 <http://miyoshi-log.co.jp/>

かながわ経済新聞

2021. 7月号

吉田英訓の

連載記事が掲載されました。

能力を引き出す社員教育とは

今回は「能力を引き出し」について、より具体的に話をしたいと思います。仕事において上司や先輩が、部下、新人に対して仕事を教えることがあります。それこそ昔でしたら、上司の仕事ぶりを見て学び、時には盗んで仕事を覚えることも多かったと思います。しかしながら、今の時代においてはそうしたやり方は減ってきていると、多くの人たちが思っているでしょう。ただ、実際に仕事を教えていっても、なかなかうまく進まないことが実に多いです。弊社も以前、現場で新人が入ってきた際、しばらくして現場の管理者などに話を聞くと「物覚えが悪い」や「要領が悪い」といった、マイナスの意見がほとんどでした。しかし、これではスキルアップは進みません。もちろん、教えられる側にも責任はありますが、実は同じ位かそれ以上、教える側にも問題があるのです。教える側は仕事を理解し、実際にできることで「自分本位」に教えていることが多いように思います。しかし、実際に教育に優れている人は、同じことを教えるにもいくつかの方法を選びます。例えば、教える場所を変えたり、話し方を変えたりと、さまざまなスタイルを持っています。教えるのが上手な人間と、そうでない人間。なぜ違いが生まれるのでしょうか。それは「教える側の目的意識の違い」が原因ではないかと、私は考えています。教える側の目的意識があまり高くないと、自己中心的な教え方になります。一方、目的意識が高い人は自己中心的というより、会社や職場など、全体の向上を目指していることが多いです。それが教育にも反映されるのです。つまり、教える側の目的意識の向上を目指すことが、教えられる側の能力の引き出しを増やしていくことにつながり、やがてスキルアップになっていきます。それがよい教育だと思います。（ミヨシ・ロジスティックス代表取締役／近未来技術研究会会長）



吉田英訓の
着眼大局 着手小局
～人と企業～